

SPring-8 運転・利用状況

公益財団法人高輝度光科学研究センター
研究調整部

◎平成26年6～7月の運転・利用実績

SPring-8は6月9日から7月4日までセベラルバンチ運転で第3サイクルの運転を行い、7月7日から7月25日までセベラルバンチ運転で第4サイクルの運転を実施した。第3サイクルでは瞬時電圧低下によるアボート等による停止があったが、全体としては順調な運転であった。総放射光利用運転時間(ユーザータイム)内での故障等による停止時間(down time)は、第3サイクルは約0.8%であった。

放射光利用実績については、実施された共同利用研究の実験数は、第3サイクルは合計252件、利用研究者は1,271名で、専用施設利用研究の実験数は合計182件、利用研究者は771名であった。第4サイクルは合計182件、利用研究者は796名で、専用施設利用研究の実験数は合計125件、利用研究者は503名であった。

1. 装置運転関係

(1) 運転期間

第3サイクル (6/9 (月)～7/4 (金))

第4サイクル (7/7 (月)～7/25 (金))

(2) 運転時間の内訳

第3サイクル

運転時間総計 約600時間

①装置の調整およびマシンスタディ等
約97時間

②放射光利用運転時間 約499時間

③故障等による down time 約4時間

総放射光利用運転時間(ユーザータイム=②+③)
に対する down time の割合 約0.8%

第4サイクル

運転時間総計 約431時間

①装置の調整およびマシンスタディ等
約119時間

②放射光利用運転時間 312時間

③故障等による down time 0時間

総放射光利用運転時間(ユーザータイム=②+③)
に対する down time の割合 0.0%

(3) 運転スペック等

第3サイクル (セベラルバンチ運転)

- ・ 1/7-filling + 5 bunches
- ・ 203 bunches
- ・ 11/29-filling + 1 bunch
- ・ 11 bunch train × 29

第4サイクル (セベラルバンチ運転)

- ・ 11 bunch train × 29
- ・ 入射は電流値優先モード (2～3分毎 (マルチバンチ時) もしくは20～40秒毎 (セベラルバンチ時)) の Top-Up モードで実施。
- ・ 蓄積電流 8 GeV、～100 mA

(4) 主な down time の原因

- ・ 瞬時電圧低下によるアボート
- ・ SR RF Est. 508 MHz 発振器の故障

2. 利用関係

(1) 放射光利用実験期間

第3サイクル (6/10 (火)～7/4 (金))

第4サイクル (7/10 (木)～7/23 (水))

(2) ビームライン利用状況

稼働ビームライン

共用ビームライン	26本
専用ビームライン	19本
理研ビームライン	9本
加速器診断ビームライン	2本

第3サイクル

共同利用研究実験数	252件
共同利用研究者数	1,271名
専用施設利用研究実験数	182件
専用施設利用研究者数	771名

第4サイクル

共同利用研究実験数	182件
共同利用研究者数	796名
専用施設利用研究実験数	125件
専用施設利用研究者数	503名

◎平成26年7～9月の運転・利用実績

SPring-8は7月26日から9月23日まで夏期点検調整期間とし、加速器やビームラインに係わる機器の改造・点検作業、電気・冷却設備等の機器の点検作業を行った。

◎今後の予定

SPring-8は9月24日から11月1日までセベラルバンチ運転で第5サイクルの運転を行い、停止期間をはさみ、11月4日から11月29日までセベラルバンチ運転で第6サイクルの運転を実施する。第5～6サイクルの運転・利用実績については次号にて掲載する。